

闘春

まともな職場風土！労働者の為の労働組合を構築しよう！！

仲間の皆さん！！今年も宜しくお願い致します。

早いもので国鉄改革から35年が過ぎ、そして、東海労結成30年を迎える重要な年となります。

東海会社は、新型コロナウイルスの猛威による業績悪化を口実に、冬のボーナスを大幅に削減しました。今職場では、ユニオン組合員からも不平と不満が渦巻いている中、一部の社員にはボーナスアップの餌をやるなど、社員のモチベーションは低下する一方です。その証左に運転ミスや出勤遅延が多く発生しています。また、今春闘では、定昇を含む賃上げ抑制や夏のボーナスの削減が予測されます。

これに対し会社は、コンプライアンスを無視した労務管理で、ユニオン若手組合員を次から次へと退職に追い込んでいます。今日の悲惨な職場風土となった責任は誰にあるのか、当然、私達東海労にも責任がないとは言えないと思います。

他方、安全問題では、12月の大雪により関ヶ原の鉄塔が危ない！新幹線が危ない！状況にありました。中部電力会社は、安全を保証していたのでしょうか？危ないから70km/hの緊急徐行だったのではないのでしょうか？

車内放送では、「東海道新幹線は、この先、線路上を横断する電力会社の設備確認のため徐行を実施いたします」と詐欺的放送がながれていました。真の安全確立とは、直ちに新幹線の運行を中止し最悪の事態を想定した対策を早急にとる事です。

30年前、私達が東海労を結成して最初のストライキは、《安全確立と大幅賃上げ獲得》が闘争課題でした。今、労働組合の意義・東海労の存在価値が問われています。その手段として「スト権確立」もひとつの選択肢といえます。

私達、東海労大運分会は、職場と法廷での闘いを結合した闘いと、まともな職場風土をつくる為に、職場からの運動を強化します。共に闘いましょう！

2 0 2 1 年 元 旦
J R 東海労大阪運輸所分会
分会 長 前 田 稔